

平成29年度 茨城大学COC地域人材育成プロジェクト採択一覧

COC地域貢献委員会

No.	事業責任者				プロジェクト名	概要	選択テーマ
	自治体等		茨城大学				
	連携先	連携先責任者等氏名	所属・職名	氏名			
1	茨城県天心記念五浦美術館 企画普及課	首席学芸員 中田 智則	五浦美術文化研究所 所長 人文社会科学部教授	藤原 貞朗	茨城県天心記念五浦美術館での文化遺産 実習による地域人材育成	昨年度に試験的にこのプロジェクトを実施しているが、それを踏まえつつ、五浦美術文化研究所と茨城県天心記念五浦美術館との協働により、主として茨城大学の学芸員資格取得希望者を対象に、地域にゆかりのある資料の実地調査および整理の実習指導を行い、地域の美術文化についての知識を育むとともに、将来、この地で美術文化の普及と発展に携わろうという意欲のある人材を育成することを目的とする。	2,4
2	社会福祉法人童心会 牛久みらい 保育園	園長 高間 道子	農学部附属フィールドサイエンス 教育研究センター センター長・ 教授	小松崎 将一	保育園・幼稚園と連携した”いばらきっ子”食 農体験プログラム	農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター(以下FSC)では牛久市の保育園と連携し平成25年から食農活動を実施してきた。昨年度の本プロジェクトにおいては、肥料、農業機械や農具の農業生産への利用について園児が学べる場を提供し、栽培から収穫、そして食までを一貫して体験できるようなプログラムを作ることができた。また園児の保護者に対しても保育園を通じ「いばらきっ子だより」を配布し本学の食農活動を理解を深める取り組みを行った。本申請では、今年度で3年目となる食農プロジェクトをさらに発展させ、本学農学部の学生が指導員として参画するとともに園児だけでなく保護者にも食や農林水産業に対して関心を深めることができるようプログラムを実施する。これにより、本学の特色である地元になじみのある大学としての機能を十分に発揮することができる。また、学生が”自ら学びともに知識を分かち合う”活動を通じて地域において農学をいかに活用するのか?実践的に理解を深め、学部での学修に対するさらなる動機づけと、さらに学生自身のコミュニケーション能力の向上を目指す。	3

※テーマ: 1 理科教育に関する課題 2 技術者養成に関する課題 3 食育・食農教育に関する課題 4 その他、地域の人材育成に資する課題

平成29年度 茨城大学COC地域人材育成プロジェクト採択一覧(追加募集)

COC地域貢献委員会

No.	事業責任者				プロジェクト名	概要	選択テーマ
	自治体等		茨城大学				
	連携先	連携先責任者等氏名	所属・職名	氏名			
1	茨城県立友部特別支援学校	校長 東ヶ崎 明美	茨城大学教育学部 准教授	片口 直樹	「つながるアート in トモトク」美術科と特別支援学校による連携の試み	<p>学校教育において、子どもの主体的な表現力を引き出す事はこれまでも重要な課題となっており、自らの生活を豊かにし、社会でたくましく生きる為の人間育成には欠かせないものであると捉えられている。次期学習指導要領においても、文部科学省は教育現場における「アクティブ・ラーニング」を推奨する方向性を示しており、教員も生徒一人一人がそれぞれの能力や特性を生かした主体的な表現方法を獲得することを望んでいる。</p> <p>そこで、本プロジェクトでは茨城大学教育学部美術科と友部特別支援学校が連携し、それぞれの学生と生徒が主体となるコラボレーション作品制作に協働で取り組ませることを計画する。これにより、やりとりする中で得られる表現意欲や、対人関係力・表現力の向上が図られ、現場の教員や指導員だけでなく、将来の教員を目指す教育学部生にとっての教育力向上につながると思う。</p> <p>なお、大学側申請者(片口)と自治体側実践担当者(蛭田)は平成26年度茨城大学社会連携センター支援事業「戦略的地域連携プロジェクト」に採択され、本プロジェクトにつながる事業を茨城県立北茨城特別支援学校を舞台に実施している。すでに連携の体制は整っており、当時の課題点を踏まえた発展的取り組みになることが期待される。</p>	4
2	ごきげんファーム(NPO法人つくばアグリチャレンジ)	農場長(副代表理事) 伊藤文弥	人文社会科学部 准教授	野田真里	地域から展開する持続可能な食と農	<ul style="list-style-type: none"> ・計画・目的・対象者の育成:茨城県内のNPOと連携し、農家、企業、自治体、ジェトロ茨城等のご協力もいただき、農業生産全国第2位、輸出も好調な当県における、持続可能な食料生産・消費と農業について、2030年までの国際社会公約である国連SDGs(持続可能な開発目標)の観点からPBLやアクティブラーニングの手法を駆使しつつ、学修・研究を行うと共に、当該分野に関心のある地域人材を育成し、もって地域社会の発展に貢献する。 ・成果:当プロジェクトにおける成果を報告書にまとめると共に、学園祭、茨城国際会議、オープンキャンパス等をつうじて学内外で発表する。SNS等をつうじて特に受験生・高校生や大学生等の若者に広く発信、次世代の地域人材育成に貢献する。 ・過去の実績等:小生のゼミナールや講義等では持続可能な開発とSDGsをテーマに学修をおこなっており、フィールドワーク等のPBLやアクティブラーニングを積極的に展開している。SDGsには飢餓の撲滅や責任ある生産と消費等、本プロジェクトに深くかかわる目標が多数含まれている。 	3,4

※テーマ: 1 理科教育に関する課題 2 技術者養成に関する課題 3 食育・食農教育に関する課題 4 その他、地域の人材育成に資する課題